

実践記録

学校/学年	中学校／2年	
教科等：単元名	技術：インターネットの使い方	
キーワード	インターネット ネットオークション フィッシング詐欺	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☒ 安全への知恵 ☒ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d4:危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する
	中目標項目番号 中目標項目内容	d4-1:安全性の面から、情報社会の特性を理解する
授業会場	☒ パソコン教室 ☐ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	インターネットに潜む危険に気づき、安全なインターネットの使い方がわかる	
使用教材	教材名	事例で学ぶ Net モラル
	製作者	広島教科用図書販売株式会社
	入手先	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶNetモラル」

○展開案

	学習活動	指導 評価◎
導入	1 インターネットを普段どのように使っているか問い、インターネットの便利さを確認する。 2 インターネットを使っていて、失敗したり、危険を感じたりしたことはないか問う。	生徒の普段のインターネットとの関わりから、インターネットの使い方へ意識を向けさせる。 失敗や危険に感じたような事例が生徒から出ない場合は、教師側で例を紹介する。
展開	3 各自「事例で学ぶ Net モラル」を使って、「電子メールのルール」、「フィッシングへの対処」、「ネットオークション」についてクリップで疑似体験する。 4 ドリルを使って全体でインターネットの使い方や問題への対処の仕方を確認する。	学級の実態に応じて、扱うクリップをいくつかにしぼっておく。 ふざけた雰囲気にならないようにする。 スクリーンを使って、全体で進める。生徒の意見を聞きながら問題を解いていく。
おわり	5 全体で意見交換する。 6 インターネットの危険と安全な使い方を確認する。 7 授業の感想を書く。	◎ネットインターネットに潜む危険に気づき、安全な使い方がわかる

○授業の成果

- ・普段からよくパソコンを使っている生徒も「なんでもサイトを信じるのはよくない。これからは気をつけたい。」などの感想を書いていた。インターネットの危険に気づかせることができた。
- ・個人情報を守る大切さについてほとんどの生徒が気づくことができた。

○指導のポイント・留意点

- ・各自でクリップを使って疑似体験する時間と、全体でドリルを使って確認する時間とを設け、効果的に学習できた。
- ・学級の実態に応じて「事例で学ぶNetモラル」からクリップを選ぶと良いだろう。